

今日は始業式です。令和6年度が始まり、1学期が始まります。2年次生の皆さん、3年次生の皆さん、一人一人のスタートの日として、今日一日を大切に過ごしてほしいと思います。そして、午後には新入生も入学してきます。新しい1年次生にも、いいスタートの日を迎えてほしいと心から願っています。

初めに、昨年度、生徒会と全校生徒の皆さんに投票等で協力してもらった、令和8年度から新たに開校する学校の校名が、「北条清新高等学校」に決まったことをお知らせします。

次に、今年度の北条高校の目標は、昨年度と同じ「人」を想い、自分を磨く」とします。この言葉にある「想う」と「磨く」は、動詞、つまり行動を示す言葉です。そして、その行動の主語はあなたです。あなたが心を決めて、動機を育てて、意志を持って行動することで、初めて、想うことができ、磨くこともできるのです。2年次生、3年次生の皆さんには、自分のペースとタイミングで、動機と意志を持って行動するという経験をたくさんしてほしいと思います。

さて、今日は植物の接ぎ木の話をしていきます。接ぎ木とは、二つの植物を一つに融合させ、それぞれの性質を合わせた新たな生命を生み出す、奥深い農業技術です。収穫量日本一を誇る愛媛の柑橘について下伊台にある愛媛県果樹研究センターの研究員の方に尋ねてみると、愛媛の柑橘は、ほぼ100%接ぎ木によって生産されているそうです。接ぎ木では、土に根を張った下の木を台木、上に接ぐ芽や枝を穂木と呼ぶそうです。例えば、古い伊予柑の台木に愛果28号という品種の穂木を接ぎ木して、紅まどんなが生産されるのだと説明してくださいました。

接ぎ木のメリットは、台木の性質と穂木の性質の二つを併せ持つ新しい一つの木ができること。例えば、病害虫に強い台木と、甘い果実を持つ穂木を組み合わせることで、病害虫に負けない甘い果実を収穫できます。また、異なる種類の木を接ぎ木することで、今まで存在しな

かった新しい品種を生み出すことができたり、古い台木に若い穂木を接ぎ木することで、木の生命力を再生させたりすることもできます。

私は、北条高等学校から北条清新高等学校への移り変わりに、接ぎ木のイメージを重ねています。伝統という根を大地に張り、年輪を重ねてきた木が北条高等学校という台木のイメージです。そして、多様性という新しい価値を求め、今まで愛媛になかった昼間二部定時制通信制併設校という新しい学びの姿を実現しようとしている若い芽が北条清新高等学校という穂木のように思うのです。

接ぎ木は、台木と穂木の両方の性質やコンディションを大事にし、注意深く環境を整えることでうまくいくそうです。

2年次生と3年次生の皆さんは、北条清新高校がスタートする令和8年度には、既に北条高校を卒業していると思います。しかし、皆さんにしかできない大事な役割があると思います。今年度令和6年度と来年度令和7年度の北条高校、すなわち、接ぎ木で言うと台木の性質やコンディション、穂木を受け入れる環境の基礎を作るのは、ここにいる2年次と3年次の皆さんの年次なのです。皆さんが、北条高校での学びを一日一日確実に刻むこと、そして、入学してくる新しい1年次生に伝統というバトンを手渡すことが、2年後に始まる北条清新高校の土台、基礎を作ることになるのです。

「人」を想い、自分を磨くことを通して、北条高校という台木を、皆さん一人一人がしっかりと育ててくれることをお願いして、式辞とします。

令和6年4月8日

愛媛県立北条高等学校長 渡邊 俊